international organization、lawyer & stateswoman

日本の人権外交を変える次代の緒方貞子
◉ヒューマン・ライツ・ウォッチ東京オフィス代表　弁護士

土井香苗さん KANAE DOI

PLATINUM WOMAN WHO's WHO

「人権問題をロビィ活動で解決。日本にはなかったアプローチに挑戦しています」

⬅大学在学中、エリトリアの法務大臣を直接訪ねてOKを貰い、法律作りに携わった。

「今この瞬間も、スリランカでは虐殺が続いています。5万人もの市民の命が危険にさらされているんです」

取材をした4月末時点で、スリランカは20年以上続く内戦の最終局面。追い込まれた反政府組織は、北部の20平方kmの地域に民間人5万人を人間の盾にして籠城し、それに対し完全制圧を目指す政府軍は砲撃を加えているという状況だ。

国際人権団体「ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）」の東京オフィスを立ち上げたばかりの土井さんだが、オフィス内に積み上げられたダンボールを開封する時間もなく、外務省へ、国会へと走り回っている。市民が逃げるための一時的な停戦をスリランカ政府に要請するよう、日本政府に働きかけているのだ。

「日本は、スリランカにとって最大のドナー（ODA援助国）。大きな影響力を持っているので、日本政府を動かせれば一時的な停戦の可能性がある――それが我々HRWの発想です。HRWはニューヨークに本部を置き、世界中の人権問題を監視するNGOなのですが、草の根で世論を変えていこうという組織ではありません。正確な事実調査、情報をもとに、ロビィ活動や政策提言などで、各国のリーダーたちに直接働きかけるというやり方を取っています。その非常にプラグマティックな方法に共感して、HRWで働きたいと思ったんです」

もうひとつ。土井さんの目下の懸案は、東京でHRWのサポーターを増やすことだ。ロビィ活動を行う上で、人的ネットワークは欠かせない。さらに、東京オフィスには年間予算約3500万円が必要となる。そのために、六本木ヒルズでチャリティ・ディナーも行った。

「よりによって100年に一度の経済危機。私ってなんて運がないんだろうと。でも、出井伸之（いでいのぶゆき）元ソニー会長、松本大（まつもとおおき）マネックスグループCEOなど錚々たる方々が出席してくださって、パーティは大盛況。自分の仕事とは直接関係ないのにグローバルな人権問題の解決をサポートしようと考えてくださる方々がたくさんいらして、本当に感動しました」

今までビジネス界とは無縁に生きてきた土井さん。「お金集めなんて私には絶対無理！と思ってたんですけどね」と、屈託なく笑う。中学生の時、アフリカの難民を描いた犬養道子のルポ『人間の大地』を読んで衝撃を受け、高校生の時には緒方貞子国連難民高等弁務官の存在を知り、進むべき道を決めた。東大3年で司法試験に合格するや、アフリカの小国エリトリアに単身渡り、法律作りのボランティアを1年間。弁護士になってからは、日本国内の難民の人権問題に携わり、その後ニューヨークに留学中、HRWに巡りあった。

「ロールモデルのないルートを独りぼっちで歩いてきた感じ。でも、それぞれの場面ではひとりではないんです。たとえばスリランカのことでも、フランス、ドイツ……世界中のメンバーと連絡を取り合って協力しながら進めています。私が日本政府を動かせるのが望ましいけど、もしそれがうまくいかなくても絶望的になるわけではありません。私がダメでも他の仲間が動いている――それが精神的なふんばりのもとになっているからです。エリトリアにいた時も、難民の弁護士だった時もそう。ひとりの力では、難しい問題がそうそううまく解決するはずがありません。仲間とやっているから、お互い元気付けられるし、アイデアもいろいろ出るんじゃないでしょうか」

目標は、グローバルな人権問題解決における、日本のプレゼンスの向上。10年後、経済的・軍事的に超大国になっているであろう中国の隣で、人権というユニバーサルバリューにおいては、中国という負の影響を打ち消すほどのアジアのリーダーになっていてほしいと願う。

「そのためにも、東京オフィスをもっと大きくしていきたい。今、私を含めてスタッフはわずかふたりですが、2年に一度ぐらいのペースで広い事務所に引っ越して、仲間をどんどん増やしていきたいですね」

取材・文／鍋田吉郎　撮影／横田紋子

PROFILE

●生年月日
1975年

●学歴
東京大学法学部、ニューヨーク大学法科大学院卒業

●職歴
東大3年生だった1996年、司法試験に合格。98年、アフリカで一番新しい独立国エリトリアに単身渡り、1年間、同国法務省で法律作りのボランティア。2000年弁護士登録。ニューヨーク大学留学後、国際人権NGO、ヒューマン・ライツ・ウォッチのニューヨーク本部フェロー。現在は、今年4月に開設した同東京オフィス代表

●休日の過ごし方
「ここ3か月ほど、東京オフィス開設のために1日も休みがありません」（泣）

●睡眠時間
5～6時間

●最近のマイブーム
数年前から始めたランニング。昨年はホノルルマラソンに挑戦。「でも途中棄権でした」（泣）

●心に残った本
イシメール・ベア『戦場から生きのびて ぼくは少年兵士だった』